

学校関係者評価報告書

この学校関係者評価報告書は、麻生公務員専門学校福岡校の学校関係者評価委員会の結果を記したものである。

平成30年9月20日

校 長 竹口 伸一郎

自己点検・評価責任者

校長代行 蓑原 睦

学校関係者評価報告書

麻生公務員専門学校福岡校

目 次

I. 学校関係者評価の概要と実施状況	- 2 -
1. 学校関係者評価の目的	- 2 -
2. 学校関係者評価の基本方針	- 2 -
3. 学校関係者評価委員名簿	- 2 -
4. 学校関係者評価委員会実施日時	- 2 -
5. 学校関係者評価方法	- 2 -
II. 学校関係者評価内容	- 3 -
基準 1 理念・目的	- 3 -
基準 2 教育の内容	- 4 -
基準 3 教育の実施体制	- 6 -
基準 4 教育目標の達成度	- 8 -
基準 5 学生支援	- 9 -
基準 6 学生募集・受け入れ	- 11 -
基準 7 社会的活動	- 12 -
基準 8 管理運営・財務（学校・グループ）	- 12 -
基準 10 改革・改善・情報提供	- 14 -
基準 9 は評価対象外	

平成29年度
(2017年度)

I. 学校関係者評価の概要と実施状況

1. 学校関係者評価の目的

- ① 卒業生、関係業界、職能団体・専門分野の関係団体、高等学校、保護者・地域住民などの学校関係者が、麻生公務員専門学校福岡校の自己点検・評価結果を評価することで、自己評価結果の客観性・透明性を高める。
- ② 学校関係者から、学校運営・教育活動の現状における課題について助言を得ることで、学校運営の継続的な改善を図る。

2. 学校関係者評価の基本方針

学校関係者評価は、自己点検・評価報告書を基に「専修学校における学校評価ガイドライン」に則って実施することを基本方針とする。

3. 学校関係者評価委員会 出席者

区分	氏名	所属
業界関係者	服部 静 (代理出席)	自衛隊 福岡地方協力本部 福岡地区隊 地区隊長
業界関係者	中島 賢一	公益財団法人 福岡アジア都市研究所 調整係長
業界関係者	正木 顕	社会福祉法人 福岡市社会福祉協議会ボランティアセンター 副所長
高校	大坪 洋二	久留米学園高等学校 教頭
地域住民	川藤 勝治	博多駅南 2 丁目 4 区自治会 自治会長
保護者	松尾 宝代	公務員総合科 在校生 保護者
卒業生	末武 勝信	公務員総合科卒業生

※区分別、五十音順、敬称略

4. 学校関係者評価委員会実施日時

実施日時：平成 30 年 9 月 20 日 (木) 15:30 ~ 16:45

場所：学校法人麻生塾 福岡キャンパス 10 号館 2 階大会議室

5. 学校関係者評価方法

平成 29 年度の自己点検・評価報告書に基づき、基準項目の自己評価結果および課題・解決方向について、下記のポイントに留意しながら評価を行った。

- (1) 自己評価結果の内容が適切かどうか
- (2) 今後の解決方向が適切かどうか
- (3) 学校の運営改善に向けた取り組みが適切かどうか
- (4) その他、学校の運営に関する助言

※参考 自己点検・評価における達成度の評定

S:達成度がきわめて高い

A:ほぼ達成している

B:達成がやや不十分であり、若干改善を要する(要観察:放置すると不適合になる)

C:達成は不十分で改善を要する(不適合)

Ⅱ. 学校関係者評価内容

基準 1 理念・目的

基準1 総括

学校法人としての教育理念に基づいて、教育目標等を掲げている。学校の教育理念を整備していく。
平成 29 年度の自己点検を行うにおいて、学校法人としての評価基準の大幅改定がなされた。新基準は、旧評価基準(平成 28 年度版)を精査検討し、評価基準について改定・追加・削除がなされている。この評価基準の改定は、学校法人麻生塾が学校運営において、より良い学校作りを目指すためのものと考え従来に比して基準を高く設定している。従って当年度の評価が、過年度評価を下回る結果として表記されている項目もあることを併せて記載した。

見つかった課題

本校としての教育理念を整備していく。

改善策又は改善の方向性

過去に年度の方針として設定した、学校の教育方針の内容を含め、本学校の教育理念を整備する。

■学校関係者評価結果：適正

学校関係者評価 評価者のご意見

・特になし。

中項目 1-1

建学の精神・法人の理念、学校の教育理念、学科の教育目的・育人人材像を明文化し、学校構成員で共有し、社会に公表しているか。

■学校関係者評価結果：適合

■自己点検・評価結果：B

■中項目総括

学校の教育理念についての整備をおこなっていく。他の項目については、明文化・共有化・社会公表を行っている。

小項目 1-1-1

法人創設時に生まれた「建学の精神」、および根本的な考え方である「法人の理念」を明文化し、学校構成員(すべての教員、職員、学生)に周知する機会を設け、社会に公表しているか。

■自己点検・評価結果：A

■コメント

教職員には麻生塾ルールブック、学生には学生便覧を個人に準備し、適宜参照が可能な状態を作っている。教職員に対しては、年度開始時に方針・目標共有の場を用いて再共有している。また学生に対しては、入学時に学生便覧を用いて説明時間を確保し共有を行っている。社会への公表は、ホームページ・学校案内等各種方法を用いて公表している。

小項目 1-1-2

「学校の教育理念」は明文化し、教育と指導を通して学生に十分に理解され、本学校の卒業生としてふさわしい資質として周知させているか。

■自己点検・評価結果：C

■コメント

教職員及び学生に周知。徹底を図っていく。

小項目 1-1-3

「学校の教育理念」には、職業教育機関として専修学校教育に必要とされる考え方や指針、内容などを盛り込んでおり、定期的に見直しを図っているか。「学校の教育理念」は社会に公表しているか。

■自己点検・評価結果：C

■コメント

教育理念を整備し、また外部公表を行っていく。

小項目 1-1-4

各学科の教育目的や育人人材像は、「法人の理念」および「学校の教育理念」から導き出されたものになっているか。またそれらを文書化し社会に公表しているか。

■自己点検・評価結果：B

■コメント

公務員試験の合格を第一としながらも、「様々な社会経験を積むことにより総合的な人間力を向上させる。」ことを学校案内等に明記し、法人の教育理念を発信している。今後整備し、公表の運びとする。

小項目 1-1-5

教育課程(カリキュラム表など)を文書化し、学生に提示し、学生は内容を理解しているか。またそれらを社会に公表しているか。

■自己点検・評価結果：B

■コメント

学生に対して学生便覧・教科シラバスを持ち説明している。カリキュラムは、ホームページ、学校案内等にて可能な限り表現公表している。

基準 2 教育の内容

基準 2 総括

成文化された「カリキュラム・ポリシー」は完備していない。ただし、教科指導においては科目の編成運営等、学生の状況に合わせて柔軟に実施している。しかしながら、近年の人物重視の傾向により、ヒューマンスキルを醸成するために、多様かつフレキシブルな対応が求められてきている。

見つかった課題

成文化されたカリキュラム・ポリシーを完備する。
学習内容、卒業要件などについてはシラバスや入学時ガイダンスで周知徹底されている。学校の育成人材像をカリキュラム・ポリシーとして明確に打ち出す必要がある。

改善策又は改善の方向性

整備されたディプロマ・ポリシーに基づいてカリキュラム・ポリシー、アドミッション・ポリシーの作成。

■学校関係者評価結果： 適正

学校関係者評価 評価者のご意見

教師の資質の維持向上、授業研究、公開授業等、授業の大切さにおいて、重点を置くべき部分をしっかり押さえて対応されていると思います。

自己点検評価を、随分厳しめの評価で行っておられると感じました。

中項目 2-1

各学科の教育目的、育成人材像に向けたカリキュラムの作成等の取り組みをしているか。

■学校関係者評価結果： 適合

■自己点検・評価結果： A

■中項目総括

教育課程を実行するための学修内容は、シラバスにより周知され、評価も規程通りに行われている。また教育課程編成委員会等の外部意見も反映され、公務員本試験を通して得た情報も、各教員から随時提供され適宜更新されている。

小項目 2-1-1

カリキュラム・ポリシー(教育課程編成・実施の方針)として、卒業認定のために、どのような教育課程を編成し、どのような教育内容・方法を実施し、学修成果をどのように評価するか等の基本的な方針を定めているか。

■自己点検・評価結果： B

■コメント

卒業認定の為の教育課程編成、及び教育課程を実行する目的(公務員試験合格)の学修内容は、カリキュラム表・科目シラバス等で周知されている。また、学修評価も評価規程に則って厳正に実施している。

小項目 2-1-2

学科の育成人材像およびカリキュラムは、その学科に対応する業界の人材ニーズに向けて正しく方向付けて作成し、社会に公表しているか。

■自己点検・評価結果： A

■コメント

公僕たるにふさわしい人材育成と、公務員試験合格に求められる学力・人的評価を向上させる為、教育課程編成委員会・学校内外セミナー等での得た各種意見に加え、実公務員試験にて得た各種情報を、学校運営で、有効かつ正しく方向付けしながら活用している。社会への公表は、Webサイトや学校案内により行っている。

小項目 2-1-3

育成人材像に向けた修業年限分のカリキュラムおよびシラバスを作成しているか。シラバスは事前に学生に配布しているか。

■自己点検・評価結果： B

■コメント

修業年限分のカリキュラムは及びシラバスは、目的に適合する状態となるように管理職・学科学年責任者を中心に 適宜 改変し作成している。シラバスの配布については、各学年開始時に配布を行っている。

小項目 2-1-4

カリキュラムの作成に際し、複数の内部職員および業界関係者などの外部関係者を入れて、カリキュラム改善のために意見を取り入れているか

■自己点検・評価結果： A

■コメント

カリキュラムの作成に関しては、年間を通じ、公務員試験受験結果より検討された複数の教員の意見に加え、国・地方公共団体等の学内外説明会、教育課程編成委員会等複数の外部関係者よりの意見を取り入れ作成している。

小項目 2-1-5

教科ごとのシラバスおよびコマシラバスを取りまとめて、教科間の整合性を図り、定期的に検証・見直しているか

■自己点検・評価結果： B

■コメント

シラバス・コマシラバスは、各教科責任者を中心に作成し管理職が取り纏め整合性を確認している。すべてのシラバス・コマシラバスは、全教職員が閲覧可能な場所に設置し、運営を行いながら全員でチェック改善を実施している。また、シラバスは毎年検討見直しを行っている。但し、コマシラバスに関しては、運用を検討する必要がある。

中項目 2-2

教育方法は適切に行なっているか。

■学校関係者評価結果： 適合

■自己点検・評価結果： A

■中項目総括

高い合格・採用実績が教育方法の適切性を説明している。その適切性を裏付けるシラバスも一部を除き有効に機能している。また、成績評価方法も学生・保護者に適切に周知され、評価自体も公平性を持って行われている。

小項目 2-2-6

授業方法は適切に行なっているか。

■自己点検・評価結果： A

■コメント

高い公務員試験合格実績・採用実績が、授業方法の適切性を説明している。また、常勤教員を中心に作成するオリジナルテキストに加え、教科によっては教育的効果の高い副教材を各教員が作成している。

小項目 2-2-7

コマシラバスを作成し、授業の中で概略と到達点を学生に周知しているか。シラバス・コマシラバスに基づいて授業を展開しているか。

■自己点検・評価結果： C

■コメント

コマシラバスの項目の中で、一部改善が必要である。

小項目 2-2-8

学習の評価は適切に行なっているか。

■自己点検・評価結果： A

■コメント

入学時オリエンテーション等のガイダンスで学生便覧を用いて評価方法を説明している。また保護者にも可能な限りの機会を設けて説明している。

成績評価は、定められた学校統一の評価規程に則って客観的に実施されている。

中項目 2-3

教授学習プロセスの改善および教員の資質の維持や向上への取り組みをしているか。

■学校関係者評価結果： 適合

■自己点検・評価結果： B

■中項目総括

効果測定は定期的に確実に実施され、担当職員へのフィードバックもなされている。しかし、教科指導の面で、弱点改善点が発見されたときのPDCAのプロセス明確化が今後の課題となる。加えて、学外中心の研修はスケジュール化されているが、内部での授業改善研修は、年間を通した調整が必要である。

小項目 2-3-9

学生による授業評価を定期的に行なっているか。評価結果をもとに授業観察や研修等の改善活動を計画的に行ない、それらを文書で確認できるか

■自己点検・評価結果： B

■コメント

年間2回の授業アンケートを実施している。結果は該当教員にフィードバックされるとともに、必要に応じて管理職等のアドバイスを中心とした指導がなされている。改善活動については計画的実施状態まで至っていない。

小項目 2-3-10

学生による授業評価以外で、授業改善のための取り組みを組織的、計画的に行なっているか。(授業改善委員会、FD等、名称問わず)

■自己点検・評価結果： B

■コメント

科目担当教員主催の勉強会、また教科の幅を広げるための研修は、計画的であるとは言えないが、不定期で開催されている。

小項目 2-3-11

教員の専門性や指導力等の維持、向上のために、計画的に内部・外部の研修や自己啓発の支援を行ない、検証・評価を行なっているか

■自己点検・評価結果： B

■コメント

年間計画を設定し実施した。学内にて外部講師を招いての本校オリジナル研修会：全教員対象・新任教員対象、学外にて専門出版社主催の公務員受験指導担当教員(選抜)

中項目 2-4

業界ニーズに対応した付加的教育の取り組みをしているか

■学校関係者評価結果： 適合

■自己点検・評価結果： A

■中項目総括

公務員として、自ら考え行動すること、正しく情報を収集すること、求められており、公務員リテラシー授業での進路選択の際の目標の明確化がなされ、必要なビジネススキルや、公務員試験合格・採用の為の基礎力向上としてのリメディアル教育も入学前から実施されている。

小項目 2-4-12

適用除外

小項目 2-4-13

キャリア教育を行ない、学生の社会的・職業的自立に向け必要な基盤となる能力や態度を育成しキャリア発達を促しているか。

■自己点検・評価結果： B

■コメント

教科展開において、教科：公務員リテラシーの実施により、自己の進むべき公務員業界選択を明確に行うこと出来る力を身に付けさせ、教科：GCBの実施によって、社会人として活躍するために必要な考え方を醸成させている。

小項目 2-4-14

リメディアル(導入前教育、補習)教育を行なっているか。

■自己点検・評価結果： A

■コメント

入学確定者対象に入学前学習のための「麻生ドリル：Web 活用学習」、公務員専攻科入学者対象の「プレ授業」、入学後導入期に実施する「計算塾」等各種のリメディアル教育を実施している。

基準 3 教育の実施体制

基準 3 総括

非常勤講師の配置やコマ数については妥当だが、非常勤講師との間で、組織として定型化された情報交換の仕組みが不完全である。

見つかった課題

組織としての情報交換、改善のプロセス。

改善策又は改善の方向性

組織としての定型化された情報交換会議の実施

■学校関係者評価結果： 適正

学校関係者評価 評価者のご意見

授業に関する非常勤の先生方との授業報告書を用いての情報交換を始め、早めの災害・豪雨に対する対応等、充分に対応されていると思います。

中項目 3-1

専修学校設置基準その他法令を遵守しているか。

■学校関係者評価結果： 適合

■自己点検・評価結果： A

■中項目総括

設置基準における要件は、概ね遵守されている。しかしながら学生数の増加により、学習環境の面で改善を行う必要性が出てきている。

小項目 3-1-1

教員は法令が定めた教員要件を満たし、必要な人員を適切に配置しているか。

■自己点検・評価結果： A

■コメント

教員要件、及び定員に対しての必要な人員を適切に配置しているが、教育指導をより充実させる面では、人員を検討する必要がある。

小項目 3-1-2

校地・校舎・講義室・実習室等の面積は、設置基準その他法令の基準を満たしているか。

■自己点検・評価結果： A

■コメント

法令の基準で運営を行っているが、学習環境面を向上させる観点からは改善の余地がある。

中項目 3-2

教育の実施体制を整備しているか。

■学校関係者評価結果： 適合

■自己点検・評価結果： B

■中項目総括

常勤講師に関しては、配置等の問題はない。意見交換・情報共有と言う意味での仕組み作りが必要。

小項目 3-2-3

学科編成・教育課程に相応しい教員組織を整備しているか。

■自己点検・評価結果： A

■コメント

授業を行う教員の専門性は、経歴等充分である。また学科・学年上の配置やコマ数に関する問題はない。

学科間での細部の情報交換については、まだ不十分な所がある。公務員試験面接期に教務会議の実施が難しいことが一番の課題となっている。

小項目 3-2-4

非常勤講師と適切な協業および情報交換を図っているか。

■自己点検・評価結果： B

■コメント

非常勤講師会は定期的に行われている。非常勤講師からのカリキュラムに対しての意見は、随時日常的に取り入れられているが、仕組として行われているものではないため、全体共有と言う面から、何らかの仕組み作りが必要と考える。

また、日常の定時的な意見交換のために、非常勤講師懇談会等の時間確保が必要と考える。

中項目 3-3

教育環境を整備・活用しているか。

■学校関係者評価結果： 適合

■自己点検・評価結果： B

■中項目総括

教育環境は、校内学外での職場見学含めて整備されているが、ボランティア保険などリスク管理の面でより整備が必要な部分が残っている。次年度からは、学外研修の際は安全指導を徹底する

小項目 3-3-5

実習で使用する学校設備機器、机・イス等の教育備品・教具等を整備し、管理体制を備えているか。

■自己点検・評価結果： A

■コメント

設備備品は、各校の需要や修繕要望に基づき整備を実施している。机や椅子についても管理簿により適切に管理されている。

小項目 3-3-6

学内外実習時の安全対策を立案・文書化し、十分な対策を取っているか。対象となる学生にはそれらを十分理解させたいと実習に参加させているか。

■自己点検・評価結果： B

■コメント

職場見学、及び学校主体でのボランティアでは、安全対策の観点から教職員が必ず引率し責任者となる。この場合は、学校保険の適用となっている。次年度より安全と言う観点から、学生へ「安全対策」と言う形で事前研修を加える計画である。

小項目 3-3-7

防災・防犯設備(非常灯・消火器・警備システム等)を整備・点検しているか。

■自己点検・評価結果: S

■コメント

法規で定められた定期的な設備点検を実施し、改善指摘分を改善している。警備システムも適切に運用されている。

小項目 3-3-8

学生が就職に関する情報を収集したり、専門職員が就職支援を行う指定された場所があり、活用しているか。

■自己点検・評価結果: B

■コメント

公務員受験に関する情報は、共有スペース、廊下掲示板、及び教室内への掲示にて周知し、随時追加更新がなされている。

小項目 3-3-9

図書室・図書コーナーがあり、教員や学生が利用できる関連図書等を備えて活用しているか。

■自己点検・評価結果: C

■コメント

図書館・図書コーナーに関しては、総合図書館にて提供を行っているが、利用については活発でない。活用度合については、総合図書館のみが数値化されている。

基準 4 教育目標の達成度

基準 4 総括

合格実績・採用実績は完全に公表されているが、総合的な教育目標であるディプロマ・ポリシーの成文化がなされ、それに基づいた効果測定が今後の改善点として挙げられる。

見つかった課題

学力面の卒業要件だけでなく、目標とする人間性を明記した形のディプロマ・ポリシーの成文化が必要。

改善策又は改善の方向性

公務員試験合格・採用だけでなく、「必要とされる人材」を中心に据えたディプロマ・ポリシーの成文化を行う。

■学校関係者評価結果: 適正

学校関係者評価 評価者のご意見

進路状況・実現についての管理を、全学生分に付きしっかりデジタルにて管理対応されていると思います。

中項目 4-1

各学科の教育目的に向けた達成度および成果を評価・公表しているか。

■学校関係者評価結果: 適合

■自己点検・評価結果: B

■中項目総括

合格実績・採用実績は完全に公表されているが、総合的な教育目標であるディプロマ・ポリシーの改訂がなされ、それに基づいた効果測定が今後の改善点として挙げられる。

小項目 4-1-1

デュプロマ・ポリシー(卒業認定の基本方針)として、どのような力を身に付けた者に卒業を認定するか基本的な方針を定めているか。

■自己点検・評価結果: C

■コメント

卒業認定の基本方針として、公務員試験に合格するための学力と人間性を兼ね備えることを大前提として学校運営を行っている。従って、ディプロマ・ポリシー策定時には、前2項目をより具体的でわかりやすい表現を用いて定める必要がある。

小項目 4-1-2

教科の評価・成績に関して目標を設定し共有しているか。また適切な評価を行ない、結果について記録し、検証・報告したか。

■自己点検・評価結果: B

■コメント

模擬試験・本試験での教科別の目標達成の検証はできているが、弱点発見時の改善プロセスのPDCAが定型化されていない。

小項目 4-1-3

いわゆる「養成校」の国家資格試験および公務員試験の合格率・合格者数等の目標を設定・共有し、結果を検証し改善等しているか。

■自己点検・評価結果： B

■コメント

公務員試験合格率・合格者数の目標設定、結果の共有、実績の公表は十分行っているが、改善に関しては、担任・教科担当の個の力に頼ることが多い、従って改善と言う面では、状況の全体共有と学校全体でのPDCAが不足している。

小項目 4-1-4

適用除外

小項目 4-1-5

適用除外

小項目 4-1-6

卒業率のアップに関して目標を設定・共有し、退学を防止する活動に関して検証し、退学者数を公表しているか。

■自己点検・評価結果： A

■コメント

卒業率に関しては、年度当初に学校全体で設定・共有されている。諸活動については、担任による面談を始め人的コミュニケーション等各種様々な状況に応じ実施しており効果も上がっている。また、退学者は、学校情報開示の要素として、HP上に掲載されている。

基準 5 学生支援

基準 5 総括

学生支援体制は担任、グループリーダー、主任、校長代行と組織的に整備され、外部専門職も含めた支援を組織的に行っている。

見つかった課題

問題発見時や対処が各学科や学年のみの共有に終わっている。

改善策又は改善の方向性

組織全体での問題点の共有を完全に実施する。改善へのプロセスについても共有を完全に行っていく。

■学校関係者評価結果： 適正

学校関係者評価 評価者のご意見

学生支援に於いて必要な学生を知る活動(入学時の二者面談、日常対応、カウンセラーの配置、進路支援等)を充分に対応されていると思います。

中項目 5-1

学生支援体制を整備し、支援を組織的に行なっているか。

■学校関係者評価結果： 適合

■自己点検・評価結果： A

■中項目総括

学生との面談、保護者との面談、就職指導は担任からグループ長、主任、校長代行と段階的、かつ組織的に実施され、効果をあげている。スクールカウンセラーなど外部専門職とも協力し実施しており、効果測定としては高い内定実績がエビデンスとなっている。

小項目 5-1-1

教員による学生の面談を定期的に行ない、適切な支援を行なっているか。

■自己点検・評価結果： A

■コメント

定例的に行うものと、状況に応じ行うものを適切に取り入れている。面談方法も担任のみならず、内容に応じ担当を変え柔軟に対応している。また、事案により専門職の協力を仰ぐことも視野に入れている。

小項目 5-1-2

保護者と計画的な相談や面談を行ない、説明責任を果たしているか。

■自己点検・評価結果： A

■コメント

年間計画に沿って実施されており、学修・生活・進路の各指導に関し、保護者へ情報提供を行うと共に、家庭との協力関係を構築するために有効である。計画外の面談も状況に応じて実施しており、柔軟に対応している。

小項目 5-1-3

キャリアサポート関連の有資格者(キャリアカウンセラー等)を配置し、学生の就職指導を行なっているか。

■自己点検・評価結果： A

■コメント

公務員受験指導という本校の特性から、就職指導＝公務員受験指導は、各担任を中心に有効に機能している。また、進路変更時には、麻生専門学校グループ福岡キャンパスの就職組織が個別の支援を実施している。

小項目 5-1-4

スクールカウンセラーを配置し、教員以外に相談できる体制を整えているか。

■自己点検・評価結果： B

■コメント

スクールカウンセラーについての設置は、福岡キャンパス全体の担当として設置されており、曜日を決めての相談体制となっている。教職員からの利用アドバイスによる相談に加え、自ら利用するケースがある。

小項目 5-1-5

ハラスメント防止に関する相談窓口を設置し、学生に周知し、有効に活用しているか。

■自己点検・評価結果： B

■コメント

委員や組織としての活動はなされているものの、内容が繊細な部分が有り判断が難しい現状がある。

小項目 5-1-6

奨学金制度等の経済的支援を行なっているか。

■自己点検・評価結果： A

■コメント

生活困窮(生活保護対象世帯)の支援等は定期的に募集を行っている。また、災害での家計急変等にも能動的に減免制度を設置している。

小項目 5-1-7

留学生、社会人学生、障がい者等を受け入れて、支援を行なっているか。

■自己点検・評価結果： A

■コメント

留学生に関する担当部門は、学校の性格上存在しないが、障がい者入学情報は教職員全員で共有されており、個人ごとに細かなサポートを実施している。また、社会人学生への支援は、中上級クラスで本科・別科・夜間講座など様々なニーズに対応している。

小項目 5-1-8

課外活動に対する支援を行なっているか。

■自己点検・評価結果： B

■コメント

課外活動に対する財政的支援規程も実績もある。ただし、顧問が十分に対応できる状態となっていない。(あくまで公務員合格実績を出すために授業/質問対応が優先されるため。) また、課外活動の満足度調査は個別では行われていない。

中項目 5-2

卒業生等に対する支援を行なっているか。

■学校関係者評価結果： 適合

■自己点検・評価結果： B

■中項目総括

校友会組織にて再就職支援を行っている。また、卒業生に対しブラッシュアップ制度や、中上級クラスでは卒業生への授業聴講制度も実施され、活用されている。

小項目 5-2-9

適用除外

小項目 5-2-10

卒業生に対して職業紹介や講習・研修を行なう体制があり周知され、効果を上げているか。

■自己点検・評価結果： B

■コメント

卒業生に関しては、職業紹介を中心に行っている。再受験希望者に対しては、聴講制度を設け広く受け入れを行っている。講習・研修を行う体制は整っていない、今後は卒業生からのニーズを収集し、本校として特徴のあるキャリアアップ制度に繋げる必要がある。

基準 6 学生募集・受け入れ

基準 6 総括

学生募集・受け入れに関しての、アドミッション・ポリシー・学費・教材費・入学選考・公務員試験結果等は、学校案内や募集要項等に記載適切に公表している。

見つかった課題

麻生公務員専門学校福岡校としてのアドミッション・ポリシーと、設置学科別のアドミッション・ポリシーの整備、公務員試験合格情報の適切更新。

改善策又は改善の方向性

アドミッション・ポリシーの整備。公務員試験合格情報提供のスピードアップ化を図る

■学校関係者評価結果： 適正

学校関係者評価 評価者のご意見

オープンキャンパス等において、全体説明・個別説明の中で募集要項を用い、対象者のニーズに応じた細かい説明がなされていて、活用が充分に行われていると思います。

中項目 6-1

学生募集活動を適正に行ない、入学選考を公正かつ適切に実施しているか

■学校関係者評価結果： 適合

■自己点検・評価結果： B

■中項目総括

学校案内や募集要項にて育成人材像、入学選考の内容は基準、学費等の必要な情報を明記・公表し、入学試験において公正な入学選考を実施している。教育成果情報提供としての公務員試験結果をタイムリーに提供することにおいて改善が必要である。

小項目 6-1-1

アドミッションポリシー(学生の受け入れ方針)を定め文書化し、入学希望者に求める資質、意欲、適性等を明示しているか。

■自己点検・評価結果： B

■コメント

募集要項に学生受け入れ方針(アドミッション・ポリシー)をわかりやすい表現で掲載し明示している。ただし、麻生専門校グループ福岡キャンパス 5 校共通であるため、学科別の内容までにはなっていない。

小項目 6-1-2

高等学校を定期的に訪問し、高校生の進路ニーズを把握し、学生募集活動に反映させているか。

■自己点検・評価結果： A

■コメント

営業担当者 15名、各県専属営業担当6名により、定期的な高校訪問を実施。進路ニーズの把握及び提案を行っている。

小項目 6-1-3

学生募集活動において、就職実績、国家試験結果、卒業生の活躍等の教育成果を、正確に伝えているか。

■自己点検・評価結果： B

■コメント

パンフレット等外部公表資料に実績に基づき適正に明示しているが、教育成果である最新の公務員試験結果の明示において改善が必要である。

小項目 6-1-4

学校案内等には育成人材像、目指す国家資格・就職先、修得できる知識及び技術等を明示しているか。

■自己点検・評価結果： A

■コメント

パンフレット等外部公表資料に育成人材像、合格実績等を明示している。

小項目 6-1-5

募集要項等には学費・教材費等をわかりやすく明示し、金額は妥当なものになっているか。

■自己点検・評価結果： A

■コメント

募集要項に明示しており、提供している教育サービス(合格実績・進路指導等)状況から、学校活動に必要な費用として適切かつ妥当な金額であると判断される。また、教材費に関しては毎年検証し必要に応じて変更している。

小項目 6-1-6

募集要項等には入学者の選抜方法を明示し、選考を公正かつ適切に実施し、毎年検証を行なっているか。

■自己点検・評価結果： A

■コメント

入学者選抜方法は募集要項に明示している。また、選考は公正かつ適切に実施され、毎年検証されている。

小項目 6-1-7

適切な募集定員を設定し、学生を受け入れるとともに、在籍学生数を収容定員に基づき適正に管理しているか。

■自己点検・評価結果： B

■コメント

施設・教員とも受入体制を整え運営している。希望状況に応じ、定員を再検討する必要がある。

基準 7 社会的活動

基準 7 総括

計画的・組織的に社会的活動(公開講座の実施・自治体、企業との連携でのボランティアなど)の取り組みを推進しており、大学・高校、自治体、連携企業から高い評価を受けている。

見つかった課題

さらに身近な地域(地域自治会)などとの連携が深められる。

改善策又は改善の方向性

自治会と社会福祉協議会と麻生公務員専門学校福岡校での連携体制の発足

■学校関係者評価結果： 適正

学校関係者評価 評価者のご意見

ボランティア活動に関して、全ての学生が参加できるよう案内の工夫等がされており、積極的な活動が推進されていると思われる。

中項目 7-1

計画的・組織的に社会的活動への取り組みを推進しているか

■学校関係者評価結果： 適合

■自己点検・評価結果： A

■中項目総括

地方公共団体、関連組織、及び福祉関連団体との関係性を重視し、学生に対して各種活動について、積極的な情報提供

を行っている。

小項目 7-1-1

学生に対し、計画に基づく社会的活動(地域活動、地域貢献、ボランティア活動等)を推進し実施しているか。(制度上の問題がなければ単位認定)

■自己点検・評価結果： S

■コメント

学生ボランティアサークルが結成されており、また社会福祉協議会との連携、定期的な情報提供も行われている。また、授業を通じてボランティアの重要性についての指導も徹底されている。地域自治体(福岡市との連携したボランティア事業＝防犯ボランティア支援など)も実施されている。

小項目 7-1-2

学校は教育資源を生かした地域住民参加の公開講座などを実施しているか。

■自己点検・評価結果： S

■コメント

学校の特性から、専門知識・技術を提供する公開講座はそぐわないため、公務員を目指すための情報提供という面で、高等学校教職員対象の公開セミナーと高等学校生徒(2, 3年生)対象の公募公開講座を運営している。また出来る限り、公務員職種理解講座を高等学校へ出向いて開催している。

小項目 7-1-3

企業・地域・行政等の組織と連携を図り、地域社会に貢献しているか。

■自己点検・評価結果： A

■コメント

各種ボランティア活動を中心に、過年度より継続してお声かけいただいている各企業・行政よりのお誘いを、良き教育的社会貢献としてとらえ実行している。

基準 8 管理運営・財務(学校・グループ)

基準 8 総括

学校法人麻生塾及び福岡キャンパスで定めた規程・ルール・手順にのっとり行われている。しかしながら、実施が中心であ

り結果の証と改善への展開が不足している。

見つかった課題

学生安全という観点での防災・防犯対策の充実。

改善策又は改善の方向性

法人全体とのバランスを考えながら、学生安全という観点での防災・防犯対策を学校独自で作成し、運用する。

■学校関係者評価結果： 適正

学校関係者評価 評価者のご意見

特になし。

中項目 8-1

学校の管理・運営体制を確立して、規程通りに運営しているか

■学校関係者評価結果： 適合

■自己点検・評価結果： B

■中項目総括

学校内の校務分掌は有効に機能しているが、福岡キャンパス全体の活動については、齟齬が生じることもあり、キャンパス全体での改善が必要となる。

小項目 8-1-1

各学校、各グループで運営会議(教務会議・グループ会議等)を定期的に行い、進捗・課題・成果を共有しているか。

■自己点検・評価結果： B

■コメント

各運営会議は定例的に実施されている。繁忙期には、各運営会議が開催できないことが発生するため、代替措置検討と確実な実施が必要である。全体共有という点で、改善が必要である。

小項目 8-1-2

各学校および各グループの構成員全員の職務分掌(業務の内容および責任・権限)を文書化し、教職員に周知し、適切に

運用しているか。

■自己点検・評価結果： B

■コメント

4月の年度開始で校務分掌は割り振られ年度を通して運営されている。しかしながら、年度末において内容振り返りと人選の適正性検証が不足している。

小項目 8-1-3

防災・防犯対策、非常時対策を文書化し組織化しているか。また、避難訓練等を定期的に行っているか

■自己点検・評価結果： B

■コメント

対策マニュアルは福岡キャンパス全体で作成されており、教職員のみでの避難訓練が定期的に行われている。学校全体での避難訓練は昨年度実施されていない。

小項目 8-1-4

個人情報保護規程を教職員に周知し、適切に運用しているか。

■自己点検・評価結果： B

■コメント

個人情報保護規定は麻生塾全体で作成され周知されている。しかしながら、部分的であるが認識が不足している部分がある。

小項目 8-1-5

ハラスメント防止に関する規程を学校構成員に周知し、適切に運用しているか。

■自己点検・評価結果： B

■コメント

ハラスメント規定は麻生塾において作成され周知されている。運用は委員を中心に行われている。制度としてまだまだ新しいものであるため、今後の醸成が必要である。

小項目 8-1-6

事務職員の意欲・資質の向上を図るために、研修計画を作成し、実施しているか。

■自己点検・評価結果： C

■コメント

厳密に言えば、事務職員を対象とした研修計画は麻生塾全体・本校ともなされていない。上記研修の中で事務的要素研

修が取り混ざって行われている

中項目 8-2

学校の財務体質は健全であり、財務運営は適切に行なっているか。

■学校関係者評価結果： 適合

■自己点検・評価結果： A

■中項目総括

関連法令と学内規程に基づき、適切になされている。

小項目 8-2-7

年度予算および中期計画を策定しているか。

■自己点検・評価結果： A

■コメント

年度予算計画は、年間事業計画と連動し策定されている。中期計画に関しては、学校独自で策定していない。

小項目 8-2-8

予算は計画に従って妥当に執行し定期的に確認しているか。

■自己点検・評価結果： A

■コメント

予算計画は、月次で経理部門と情報交換を行い適切に確認運用している。

小項目 8-2-9

固定資産を適切に管理・運用しているか。

■自己点検・評価結果： A

■コメント

事業戦略グループと情報交換を行いながら適切に管理している。

小項目 8-2-10

適用除外

基準 10 改革・改善・情報提供

基準 10 総括

改革・改善は、必要に応じて随時実施している。また、自己点検・評価活動を用いて学校全体の現状把握を行い、次年度以降の改革・改善につなげている。結果はホームページを用いて公表している。

学校活動状況の各種情報提供は、時期に応じて学校案内・ホームページ等の広報手段を使って発信している。

見つかった課題

改善・改革は日常の諸活動で発生した各種の事柄を、日常業務の中で実施しているが、学校全体で仕組みを作った活動までになっていない。自己点検・評価活動を一部の管理職で実施しているため、まずは情報の共有という面で改善が必要である。情報提供に関しての意味について、全教職員の共有が不足している。

改善策又は改善の方向性

全教職員対象の自己点検・評価、及び学校情報提供の意味に関する勉強会(研修会)実施

■学校関係者評価結果： 適正

学校関係者評価 評価者のご意見

改革・改善について、管理職の取り組みとともに、全教職員に対しての取り組みがなされていると思う。

中項目 10-1

自己点検・評価活動の実施体制を確立して、改革・改善のためのシステムが稼働しているか

■学校関係者評価結果： 適合

■自己点検・評価結果： B

■中項目総括

自己点検・評価活動が中心となっている。自己点検・評価活動より発見された諸問題は、大別すると日常の様々な活動で改善できることと、出来ないことに分かれ、前者は日常業務の中で継続改善され、後者は問題に応じて適正な課所に図り改善を実施すること流れとなっている。

小項目 10-1-1

自己点検・評価の意義を全教職員に伝え、点検・評価活動の方法や評価基準を共有する機会を設けたか。

■自己点検・評価結果： C

■コメント

一部の職員が主体的に活動するにとどまっている。

小項目 10-1-2

自己点検・評価を実施し、その結果に基づいて、改善計画を作成・実施し、結果の検証をしているか。

■自己点検・評価結果： C

■コメント

実施はなされたが、改善計画の作成・実施、結果の検証は行われていない。

小項目 10-1-3

自己点検・評価報告書は、公開に際して外部の方にわかりやすいような表現にしたり、必要な解説を加えたか。

■自己点検・評価結果： B

■コメント

表現に関しては平易で適切な表現を用いている。解説が必要な部分については、今後工夫が必要である。

小項目 10-1-4

適用除外

小項目 10-1-5

適用除外

中項目 10-2

公的な教育機関として、教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を積極的に提供しているか。

■学校関係者評価結果： 適合

■自己点検・評価結果： B

■中項目総括

提供している情報は、対象者に応じて行っているが、学生募集活動に関しての量が多く、偏りがある。教育活動・学校運営に関する情報は、自己点検・評価報告書と学校関係者評価報告書が基本となっており、提供方法は、学校案内等の印刷物とホームページで行われている。また、ホームページはすべての人が自由閲覧できる状態となっている。

小項目 10-2-6

法令およびガイドラインに従い積極的に情報提供の取り組みを行なっているか。

■自己点検・評価結果： C

■コメント

情報公開が必要であるという認識は、残念ながら管理職に限定されており、全教職員まで浸透していない。

小項目 10-2-7

提供している情報はガイドラインに示された項目に沿ったものであるか。

■自己点検・評価結果： B

■コメント

情報は、ガイドラインに示された項目に沿うよう提供されているが、まだまだ不足している。今後は提供情報を充実させる必要がある。

小項目 10-2-8

情報提供は対象者に合わせて情報の内容や提供手段を工夫し、わかりやすく効果的であるか。

■自己点検・評価結果： B

■コメント

提供する情報は対象者に合わせ、写真・図表・グラフなどを用いて視覚的にわかりやすさを表現し、文章も易しい表現を用いる工夫をしている。